

東洋建設の歩み

海から陸へ、そして海外・建築へと活躍のフィールドを広げてきた東洋建設の歩みをご紹介します。

第1期 1929～1945 会社の設立と請負事業への進出

1929年7月3日、兵庫県鳴尾村(現 西宮市)の沖合を埋め立て、一大工業団地を造成することを目的に、山下汽船(現(株)商船三井)と南満州鉄道の共同出資により、阪神築港株式会社として設立されました。鳴尾埋立事業は1933年10月に着工しましたが、日中戦争の勃発により中断を余儀なくされました。



初代社長 山下亀三郎

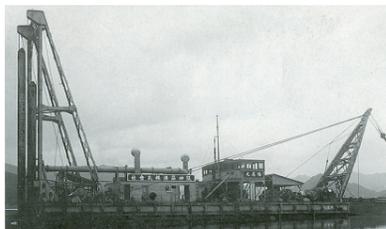


●鳴尾埋立事業のほか、建設請負業を開始

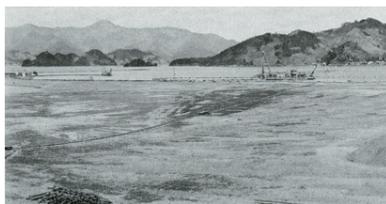
1932



当時の埋立計画図



当社初の電動ポンプ式浚渫船「鳴尾丸」



佐伯航空隊敷地埋立工事(大分県)

第2期 1945～1972 浚渫・埋立ブームの到来

終戦後は厳しい経営状況が続きましたが、1960年頃から港湾整備予算が増加し、いわゆる「埋立・浚渫ブーム」が到来しました。当社も岡山県水島港など、我が国の高度成長の基盤となる臨海工業地帯の埋立事業に数多く参画しました。鳴尾埋立事業は1967年に再開、1986年に土地の販売が完了しました。

●戦後初の請負事業である利根川浚渫工事(千葉県)を受注

1946

●東京証券市場第2部に上場

●東洋建設株式会社に商号を変更
●東京・大阪証券市場第1部に上場

1962

1972

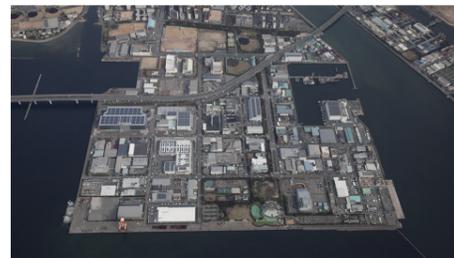
●シンガポール営業所開設(海外進出)



水島臨海工業地帯造成工事(岡山県)



鹿島港浚渫埋立工事(茨城県)



現在の鳴尾浜(兵庫県)

第3期 1973～1999 建築・海外への進出

マリコンとしての確固たる地位を築いた当社は、1972年に海外、1976年に建築事業に進出しました。1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、当社は神戸港の復旧に中心的な役割を果たしました。

●海外事業部(現 国際支店)設置
●ナボタス漁港建設工事(フィリピン)を受注
●マニラ営業所(フィリピン)開設

1973

1976

●建築部・建築営業部設置(建築部門進出)
●フィリピンに合弁会社CCTを設立
●東京本部を東京本社に改称

1995

1997

●プノンペン営業所(カンボジア、現 プノンペン出張所)開設

1999

●ISO9001 全社認証取得

2001

●ISO14001 全社認証取得

2002

●前田建設工業株式会社との業務提携を発表

2004

●ハノイ営業所(ベトナム)開設

2006

●ジャカルタ営業所(インドネシア)開設

2011

●東日本大震災復興工事に従事

2017

●中期経営計画(2017～2019年度)発表

創立90周年



ナボタス漁港建設工事(フィリピン)



ガテックス・ターミナル建設工事(マレーシア)



ロワジュールホテル那覇(沖縄県)



篠山町庁舎(兵庫県)



六甲アイランド緊急岸壁復旧工事(兵庫県)



関西国際空港1期埋立工事(大阪府)



羽田空港D滑走路増設(東京都)



日本海西部地区魚礁据付(島根県)



金石港湾口地区湾口防波堤工事(岩手県)



函館港若松地区岸壁工事(北海道)



紀の川市新庁舎(和歌山県)



ビー・ブラウンエースクラップ新栃木工場(栃木県)



ロジスクエア春日部倉庫(埼玉県)



JA全農ミートフーズ基山パックセンター(福岡県)



モンバサ港コンテナターミナル開発工事(ケニア)



ティラワ港コンテナターミナル建設工事(ミャンマー)